

# 広報ふくら

## 第18号

平成27年3月 編集発行 浅井湯田地域づくり協議会 連絡先 湯田公民館 TEL74-1438・FAX74-1427

### 外国から大学教授が初めての訪問 ふくらの森再生活動に中心と助言をいただく

当協議会が二年前に区民の皆さんに呼びかけて「ふくら塾」を企画実施しました。その第一回の講師としてお世話になった「京都総合地球環境学研究所」の佐藤哲教授から昨年12月にメールが届き、カナダの森林研究の女性大学教授をふくらの森へ案内したいという依頼の打診がありました。そ

### 1時間かけて森内を案内

その後、当協議会として二回の運営委員会で協議して受け入れを決め、去る2月11日に地域振興部会を中心に総務広報、健康福祉部会女性4人の協力も得て体制を整え、カナダのサスカチュワン大学のモーリン・リード先生をお迎えしました。



シンボルツリー「アベマキ三兄弟」を見上げる参加者一行

一行は午前9時に到着され、早速、森内を約1時間かけて案内しました。20センチほどの積雪がありました。シンボルツリーの前でふくらの森の特徴や周辺の開発状況、地主の協力体制、所有形態などを説明しました。

### 「感響の家」で学習と交流

カナダは世界的な森林国ですがその90%以上が国家管理され、木材は計画的に伐採して輸出されています。リード先生が関心を示されたのは、民有林として長きにわたって守られ、生活の糧として活用されてきたふくらの森が、地主の協力を得て再生されつつあることでした。

その後森林内を散策し認定子供園や遊園地も案内し、内保製材所内のモデルハウス「感響の家」に移り、中川仁男地域振興副部長作成のパワーポイントでまとめられた再生活動の説明と川瀬の洋社長から木材を使った日本建築の伝統および当社の建築理念についてパワーポイントでの説明を受けて意見交換しました。話題となったのは若い世代の森林に対する関心をいかに高める



「地籍図」を説明する中川さん。その右2人目は佐藤先生、その右がM. リード教授



内保製材「感響の家」で再生活動の歴史をパワーポイントで説明する中川仁男さん。



女性達手づくりの「おもてなし料理」を前に、三田弘子さんの説明を聞く出席者たち

午後からは昼食をとりながら交流しました。女性の皆さんたちが前日から準備されてきた郷土の食材を使った料理や自家製の鮎ずしとつけもの、炊き込んだお講汁や馴れ寿司やぼた餅などが並べられ、三田さんの説明にはリード先生も興味を持たれて耳を傾けられ、一品一品をカメラに収めておられました。食べていただけるか気を遣いましたが、その心配も徒労に終わりました。

### おもてなしの食事に感嘆

か、環境教育およびレクレーション、区民交流基地としての再生、高齢者の認知症防止と森林の役割、家族のライフスタイルを大切にしたい、木材を生かした伝統的な日本家屋の建築普及などでした。また、湯田小3年生児童が自然観察学習でふくらの森に入り、思いを込めて作成した案内パンフレットには大変驚かれて強い関心を示されました。

**平成27年度総会ご案内**

1、日時	4月19日(日) 午後1時30分～
2、会場	湯田公民館集会室
3、出席	会員および会員参加希望者
4、内容	1時30分～2時20分 講演 講師はシイタケ栽培農家から招聘
5、総会	午後2時30分～3時30分
6、各部会会議	3時30分から約1時間 総会后、5部会に分かれて行います